

第4学年 社会科学学習指導案

1 単元名 富山県の広がり

2 単元について

○ 児童の実態と教材、授業との関わり

本学級の児童は、普段の生活の中であまり公共交通機関に乗った経験がない。家族で出かける際は、自家用車を使うことが多く、友達の家に行くときは自転車や徒歩である。そこで、1学期に富山県警察本部へ見学に行く際、JR 高山本線を活用し、改築中の富山駅の様子だけでなく、駅北に停車中のポートルムも見学した。ポートルムを見た感想は、「かっこいい」といった見た目のものだけでなく、床の低さから使う人のことを考えているといった発言も出ていた。少しずつではあるが、公共交通機関のよさに気付き始めている。

そこで、本単元「富山県の広がり」では、「県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置」を基に単元構想した。その中の「富山県の交通」の学習では、公共交通機関の良さに少しでも気付かせたい。内容として、「県内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置を取り上げて調べ、白地図に表す」ことを中心に学習する。特に、富山県の鉄道の様子をとらえる際に、公共交通機関の良さを含めて学習を進める。富山市独自のモビリティ・マネジメント教育（以後 MM 教育という）のプログラムの作成を考慮に入れるものの交通の学習は2時間扱いとする。そのうち本時では、前半部分を「鉄道の大切さについて考える」ことを重点とし、後半部分を「富山県の鉄道の広がり」について学習を行うことにより、社会科のねらいを逸脱せず、MM 教育ができると考えた。

本時では、どの子にも分かりやすく、関心をもてるように、白地図やワークシートを準備する。また、できる限り分かりやすい資料を提示するとともに、所々理解しているかどうかを確認できるように声をかけ、作業が円滑に進むようにしていきたい。そうすることにより、資料の読み取りや言語での理解が苦手な児童でも、作業を通して、実感を伴った理解ができると考える。

3 単元の目標

- ・ 自分たちの住む富山県の様子に関心をもち、意欲的に調べるとともに、その特色やよさを考えようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- ・ 自分たちの住む富山県や市町村の位置、県の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、地形や交通網の様子、主な都市の位置の相互の関連やそれらと人々の生活とのかかわり、県の特色やよさを考えて、適切に表現している。 【社会的な思考・判断・表現】
- ・ 47 都道府県の名称や位置、自分たちの富山県や市町村の地理的位置、県の地形や交通網の様子、主な都市の位置について、これまで学習してきたことや地図その他の資料を活用して新たに調べたことを整理してまとめている。 【観察・資料活用の技能】
- ・ 47 都道府県の名称や位置、自分たちの富山県や市町村の地理的位置、県の地形や交通網の様子、主な都市の位置を理解している。 【社会的事象についての知識・理解】

4 全体計画と観点別評価規準

次	学習課題	観点別評価規準 (B)			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第一次 3時間	富山県の様子や市町村の様子について調べよう。	富山県の位置や市町村の広がりに関心をもち、意欲的に調べようとしている。	富山県の土地利用の特色を地形と関連付けて考え、適切に発言したりノートに書いたりしている。	富山県や市町村の様子について、地図帳を使って調べ、白地図やノートにまとめている。	県内における自分たちの市の位置や、県内の主な市町村の名称と位置を理解している。
第二次 3時間	富山県の地形の様子と土地利用について知ろう。	富山県の地形の様子と土地利用に関心をもち、意欲的に調べようとしている。		富山県の土地利用の様子について興味をもち、意欲的に調べようとしている。	富山県の地形の様子を読み取り、白地図やノートにまとめている。
第三次 2時間 本時 (1/2時)	富山県の交通の様子について知ろう。	富山県の交通網の様子について興味をもち、意欲的に調べようとしている。	富山県の交通網の様子を市街地の分布と関連付けて考え、話し合ったり白地図に表現したりしている。	富山県の交通網は主な都市をつなぐように張りめぐらされていることを資料から読み取っている。	県内全域に道路や鉄道が張りめぐらされ、人々の生活を支えていることを理解している。

5 本時の学習 (7 / 8 時)

(1) 本時のねらい

- ・ 鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解することができる。

(2) 本時の展開

<p>学習内容と活動 ・ 予想される児童の反応</p>	<p>○指導上の留意点 ●支援が必要と予想される児童への手立て ◆評価規準【評価方法】</p>
<p>1 鉄道の大切さや問題点について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスや鉄道といった公共交通は環境に優しい乗り物なんだね。 ・ これからはもっと公共交通を使うといいね。 ・ 10代の利用者が多いのは、高校に通学する人のことだね。 ・ 50代の利用者が多いけど、若くなるほど利用者が減っているよ。若い人が利用しなくなっているんだね。車を利用しているんじゃないかな。 <p>2 高山本線の敷設図と市街地を関連付けて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅の近くは市街地が多いよ。 ・ 高山本線は市街地を結んでいるよ。 ・ たくさんの人が利用できるよになっているんだね。 	<p>○ 1人を1km運ぶために排出する二酸化炭素の資料(自家用車、航空、バス、鉄道の比較)から、公共交通が環境に優しい乗り物だということを理解させる。</p> <p>○ 公共交通を利用する人・利用者数のグラフから、公共交通の問題点について考えさせる。</p> <p>◆具体の評価規準〈知識・理解〉 鉄道の大切さについて考えたり、話し合ったりしている。 【発言・ワークシート】</p> <p>○ 高山本線の敷設図と市街地の地図を用意し、それぞれの駅が市街地や市街地の近くに多く存在することを確認する。</p>
<p>富山県の鉄道はどのように広がっているのだろう</p>	
<p>3 富山県の鉄道の様子を市街地と関連づけて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山県全体でも鉄道は市街地を通るんじゃないかな。 ・ 駅と駅を結んでいけばいいね。 ・ 鉄道はピンク色の市街地の部分を多く通っているみたいだね。 ・ 富山市や高岡市に鉄道が集まっているみたいだね。たくさんの人が住んでいるからかな。 <p>4 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通は環境に優しい乗り物なんだね。 ・ 鉄道って人びとの暮らしになくてはならないものだと分かったよ。 ・ 鉄道は町と町、人と人をつなぐものなんだね。 ・ 富山駅周辺はたくさんの人が住んでいるから、たくさんの鉄道が集まっているよ。 ・ 高岡市にも、たくさんの鉄道が集まっているね。 ・ 鉄道は富山県の市町村をつないでいるみたいだね。 	<p>○ ワークシートを用意し、児童が線路の様子を予想し、書き込めるようにする。</p> <p>● 理解に時間のかかる児童には、時折声をかけ、理解しているかを確認したり、より理解力が深まるよう、個別に支援をしたりする。</p> <p>● 分かりづらい発言については、「～さんの意見が分かった人？」と聞き、他の子に説明させることで、理解に時間のかかる児童にとっても分かるようにする。</p> <p>○ 富山県の鉄道の様子が分かるように鉄道の路線図を用意しておき、見せるようにする。</p> <p>○ 授業のねらいに迫るキーワードを提示し、その言葉を必ず入れて学習の振り返りを行うことによって、ねらいに迫れるようにする。</p> <p>◆具体の評価規準〈思考・判断・表現〉 富山県の交通網の様子を主な都市の分布と関連づけて考え、話し合ったり白地図やワークシートに表現したりしている。 【発言・ワークシート】</p>

(3) 授業の視点

社会的事象のつながりをとらえる上で、書き表す活動や言葉かけ、資料やワークシートの準備や板書での整理などの支援は効果があったか。